

# デジタルトランシーバーと中継機による携帯圏外データ通信実証見学会の概要（R6）

## ■ 実証見学会の目的

これまで、デジタルトランシーバーと Soko-coForest（ソフト）による携帯圏外通信の実証試験を行ってきましたが、2023年の法改正によって中継機を使った通信が可能となりました。これにより、3km程度の通信可能距離が倍程度伸びることとなることから、実証見学会を開催しました。

## ■ 実証見学会の概要

開催日：令和6年9月6日（金）13:00～15:00

会場：中濃森林組合事務所（美濃市長瀬）及び美濃市内山林

参加者数：22名。（林業関係者）

## ● 使用機器

デジタルトランシーバー （株）JVCケンウッド製 TCP-D751  
ソフト （株）BREAKTHROUGH社 Soko-coForest

## 見学会の成果

- 通常約3kmの通信距離が、中継機を使用することで約6kmの通信が可能となりました。
- 参加者に、デジタルトランシーバーの性能と、Soko-coForestの活用方法を理解していただいた。

## ■ 今後の課題

- 導入費用が高価  
（本体+アクセサリ（7万円）、維持費（15万円/年）（デジタルトランシーバー3台分通信管理費）（2025年9月時点））

## ■ 今後の対応

- 森林技術者の労働災害の低減や労働負荷低減の一つとして、新たな林業機械が開発された際は見学会を開催する。

## ■ 見学会のようす



車に中継器を設置し、通信状況  
の実証試験を実施

